

シミュレーション Case04 高校2年生のDさんの場合

【プロフィール】

- ・私立高校に通う高校2年生。文系志望
- ・部活が忙しく、今のところ塾には通っていない。
- ・数学は定期考査のとき勉強をする程度。
- ・学校の授業も難しく感じるようになり、個別指導でまずは基礎固めをしたい。

高2までに自分なり勉強方法を確立することは高3からの受験勉強を進める上でとても重要になります。Dさんはまず個別指導をペースメーカーにして、**継続的に学習を行う習慣を身につけるところからスタートすること**にしました。

【カウンセリング】

Dさんは、これまで定期考査前しか数学の勉強をしておらず、勉強のやり方そのものもわかっていませんでした。まずは**継続的な学習習慣を確立**すること。これがDさんの目標となりました。そのために、学校の進度を少し先取りする形で数学ⅡBの内容を基礎から徹底的に学習することにしました。

また、Dさんがこれまで使用していた教材は、学校配布の傍用問題集のみであったため、それ以外の参考書を持っていませんでした。まずはDさんにあった参考書を推薦してもらい、授業と自宅学習で使用できるメイン教材として使用し、その**一冊をやり込み、完全に仕上げる**ことを目標にしました。この高2の期間に受験勉強をするための準備を行います。

【実行結果】

始めの頃は提示された課題をこなすことで時間がかかり、すべてやりきれないこともありましたが、そこで、予習段階では、参考書の例題部分を読むことだけに専念し、分からない箇所を授業で消化する形式としました。授業を通して各単元のポイントを身につけて、自宅では復習・定着を中心テーマとして演習するサイクルを繰り返し、習慣づけることで、高2の終わり頃には、**自分の勉強方法を確立して受験学年を迎える**ことができました。結果、入試に対する意識も高くなり、志望校を早い段階で決定し、年間の受験計画を自分で考えて、着実にこなす自主性を育てることもできました。

数特塾では、数学そのものだけでなく、**勉強のやり方も指導**していきます。毎回の課題を提示し、自宅学習についてもコントロールすることで、受験勉強に必要な習慣も身につけます。また**受験に対する意識を早くからもつ**ことで、志望校決定や受験計画作成などを含め、受験全般について先手をとることができます。

年間スケジュール

月	週	テーマ	レベル・形式	
春期	1	式と証明	数学Ⅱ 基礎講義	
	2	複素数と方程式		
4月	1	図形と方程式①		
	2	図形と方程式②		
	3	図形と方程式③		
	4	図形と方程式④		
5月	1	三角関数①		
	2	三角関数②		
	3	三角関数③		
	4	三角関数④		
6月	1	指数関数①		
	2	指数関数②		
	3	対数関数①		
	4	対数関数②		
7月	1	数学Ⅱ演習①	入試基礎演習	
	2	数学Ⅱ演習②		
夏期	1	微分法①		
	2	微分法②		
	3	微分法③		
	4	微分法④		
	5	関数と方程式①		
	6	関数と方程式②		
	7	関数と方程式③		
	8	関数と方程式④		
9月	1	積分法①	数学Ⅱ 基礎講義	
	2	積分法②		
	3	積分法③		
	4	積分法④		
10月	1	数列①	数学B 基礎講義	
	2	数列②		
	3	数列③		
	4	数列④		
11月	1	数列⑤		
	2	数列⑥		
	3	数列⑦		
	4	数列⑧		
12月	1	数学ⅡB演習①		入試基礎演習
	2	数学ⅡB演習②		
冬期	1	平面ベクトル①		
	2	平面ベクトル②		
	3	平面ベクトル③		
	4	平面ベクトル④		
1月	1	空間ベクトル①		
	2	空間ベクトル②		
	3	空間ベクトル③		
	4	空間ベクトル④		
2月	1	軌跡と領域①		
	2	軌跡と領域②		
	3	微積分①		
	4	微積分②		

【春期～夏期】

参考書と学校使用の傍用問題集を中心に、各単元の基礎事項を確実に消化していきます。またそれ以外にも、夏期講習では、**一歩先に進み、分野横断的な問題にも挑戦**します。これにより今学習していることが将来的にどのように役に立つのかが見えてきます。**基礎講義の中でも、先を見据えて、来年の準備となる授業を織り交ぜつつスケジュールは作成**します。

【9月～1月】

数学Bを中心に1学期同様、基礎事項の定着を最大の目標にして学習を進めます。特に「数列」「ベクトル」は苦手意識の出やすい単元です。**Dさんの学習進度に合わせてそれぞれ十分な時間を割いてカリキュラムを組みます。途中、演習授業を通して、既習事項の定着確認**もします。

【2月～高3】

いよいよ本格的な入試問題に取り組む準備を始めます。**各単元で学んだ事項を横断的に利用して考えたりする問題にも触れること**になります。受験学年へ向けてスタートダッシュを決めることが可能です。